きぬこかい新聞

発　行
国土交通省
下館河川事務所
きぬ・こかい情報発信局

〒308-0841
茨城県筑西市二木成1753
TEL 0296-25-2161
HPアドレス
http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/

小貝川危機管理演習
筑西市と下館河川事務所との連携を図る

平成二十二年一月十八日に小貝川沿川の筑西市と下館河川事務所とで連携し、合同の危機管理演習を実施しました。

本演習は小貝川において、洪水による堤防決壊が発生したことを想定し、洪水対策及び重大災害への判断・指導・実施を迅速かつ適切に対応する能力を向上させるために実施しました。

当日は、筑西市長以下同市職員並びに消防団と下館河川事務所職員が密接に連絡を取り合い、小貝川の水位の上昇及び堤防決壊に伴う的確な住民避難のタイミング・避難場所の検討、迅速な排水ポンプ車等の派遣、水位予測等の情報の共有等、実践に即した訓練を実施しました。

演習後は検討会を実施し、課題の抽出を行なうとともに、流域自治体との協力関係を強化し、災害時に的確な対応をとることが出来るよう検討しました。

演習状況

共同記者会見（模擬）において、吉澤筑西市長回答

勝瓜（かつうり）魚道・さくらづつみ工事
農水省と連携事業
鬼怒川の魚類遡上環境改善事業（勝瓜頭首工へ魚道設置）

平成二十一年一月二十三日、三月十一日、六月二十五日に『勝瓜周辺魚道遡上環境改善検討会』を開催し【学識者四名と「鬼怒川南部漁業協同組合」、「鬼怒川南部土地改良区連合」の川漁業協同組合」、「鬼怒川南部土地改良区連合」の関係機関及び茨城県、栃木県、筑西市、真岡市の行政機関、国土交通省、農林水産省（農水省）と併せて、勝瓜頭首工の改善事業（農水省）として、魚道を設置し、連携事業として魚道設置を行うことで了解が得られました。

この委員会において、主な対象魚種としてウナギ、カジカ、トウヨシノボリ、ヤマメ、カワヨシノボリ、多様な流況及び水深を確保する為「ハーフコーン型」の魚道が位置付けられ、現在、農水省と協議を進めています。

鬼怒川に生息する主な魚種

地元開催「どんど焼き」
渡辺建設㈱が設営支援

平成二十二年一月一〇日（日）、栃木県真岡市の地元自治会（根本子ども育成会）主催により、「どんど焼き」が小貝川河川敷（栃木県真岡市根本地先）において行われました。

「どんど焼き」とは、日本各地で行なわれる小正月の火祭りで、お正月に使った門松やしめ縄、お守り、破魔矢、祈願成就した「だるま」などを持ち寄って燃やします。

その火で焼いた餅を食べるとその年の病を払い、また、書き初めを焼いた時に炎が高くあがると習字が上達するなどと言われています。

「どんど焼き」を開催するにあたり、真岡出張所管内でエ事を実施している渡辺建設㈱の方々が、会場の整地、枯草の集草（五〇束）、御神木の設置、焼却後の整地、照明機の提供等、地域貢献として協力して下さいました。

河川敷内支障樹木の処分費削減に一役
支障木がヒラタケ原木に
～協和養護学校通信

下館河川事務所では、河川敷内伐採木の処分費の削減と木材資源の有効活用を目指し、沿川自治体と検討会を設置し、協働・連携して活動していますが、この度、平成二十一年三月に協和養護学校に提供した伐採木（川の流れの阻害になるなど河川管理上支障となっている樹木を環境に配慮しながら伐採したもの）について、敷に繁茂している樹木を、その後の活用報告がありましたので、ご紹介致します。

これらの取り組みのさらなる拡大と推進を目指し今後も沿川自治体と連携・協働してまいります。

当事務所ではこれ

・三月高等部農耕班がヒラタケの菌を植付
・十一月下旬ヒラタケの芽がでました。
・十二月四日給食の献立に登場（ヒラタケのバターソテー）

茨城県立協和養護学校資料提供

自然の写真・・・五人展開催
（野鳥、蝶、筑波山の自然）

鬼怒川周辺で撮影した蝶や野鳥・風景等の自然の写真展が開催されます。

今回は左記の五人の方々の力作が展示されます。

皆様、是非足をお運び下さい。

【期間】
平成二十二年二月七日（日）～
平成二十二年三月二十八日（日）
右記期間中の水・土・日及び祝祭日
（鬼怒水辺観察センター開館日）

【時間】
午前九時～午後三時

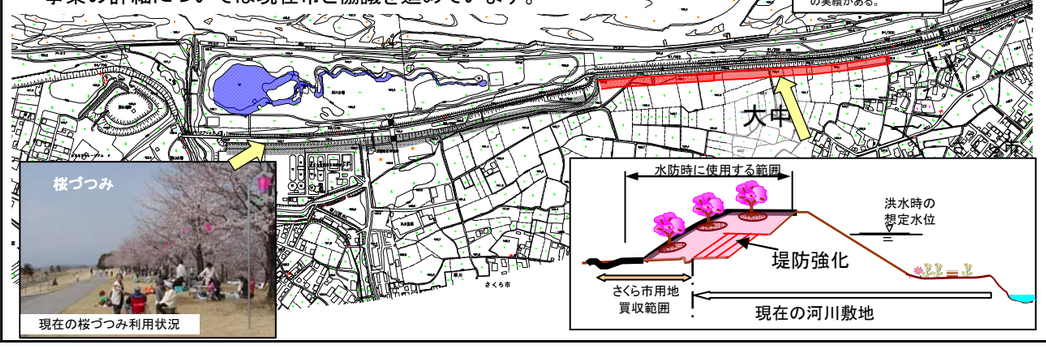
【場所】
真岡市鬼怒水辺観察センター脇
真岡インフォメーションセンター

【出展者及び出展内容】
①石塚啓次郎・筑波山の自然
②大塚博・蝶
③木村正行・野鳥
④佐々木勝信・野鳥
⑤鈴木敏夫・野鳥
あいうえお順

【連絡先】
鬼怒川水辺観察センター
〇二八五―八四―六四三九

H21写真展

さくら市と連携事業

・さくら市の合併の象徴的な事業である「さくらロード事業」で発生する残土を有効活用し、昭和24年キティ台風により決壊した箇所の堤防の強化を図るとともに、重大な災害が発生した時に、水防のための備蓄土砂として確保するものです。
・さらに、さくら市の残土処理コストの低減とさくら市のシンボルとしてふさわしい景観の形成（さくらの名所）を図るものです。
・事業の詳細については現在市と協議を進めています。

決壊記念碑
※S24年キティ台風決壊の実績がある。